

No.	パブリックコメント意見	パブリックコメントへの回答
1	<p>様々な地域課題の根底には「男性主体の長時間労働」「誤った数値成果主義」「高齢世代を筆頭に根強い男女役割分担論」という点が大きく関与している。この解消を加速化し、基本目標を実現し様々な課題解決を加速化させる一手として「市長・行政管理職の一斉イクボス宣言と中小企業のイクボス育成の取組推進」を行う、あるいはその必要性と推進体制を明記し大々的に周知していくのはいかがか。</p> <p>仕事と生活の調和は「育児」のみならず、「介護との両立」にも多分に影響する。高齢化の進む本県においては、どの地域にしろ、この視点は極めて重要と考える。同時に、この視点は「若い世代への希望」ともなりうる。日常的に若者と接する仕事をしているが、彼らの思考は「この仕事が魅力的だ」ではなく「この環境なら生活と調和を目指せる」という点にあり、この点は企業の意図とのミスマッチにもつながっている。ここに手を入れることで、無理なイノベーションに頼らず、企業の本来持つ活力・雇用者が本来持つ能力を十分に地方に還元できる体制を作ることが可能になると感じている。同時に長時間労働が全国2位という不名誉も払しょくできよう。</p> <p>また、子育て世代にとってもこれは重要な課題であり、例えば県が策定を検討する現物支給より、「日常的に家族が夕食時に揃い、父母の関わりから子どもが様々な学びを得る」ことを望む声が多い。これは女性活躍という視点からも、これまで女性に偏り続けた家事労働負担を、男性も担っていくための風土づくりを進め次代に継承していくことにも繋がっていく。この点でも上記の宣言は「子育てするならこの地で」という、定住化の促進政策としても有効なものになるのではないかと是非検討いただきたい。</p>	<p>ご提案のありましたとおり、組織のトップや管理職がワークライフバランスを促進することが必要であると考えています。</p> <p>行政だけでなく民間企業も含めて、出産や子育て、介護ができるよう休暇を取得しやすい環境づくりや、超過勤務の縮減などにより、仕事と家庭の両立ができるよう取り組みを進めます。</p>
2	<p>・特性(うるし)を生かした取り組みについて どの程度推し進めるのか、原木の成長速度を勘案すると以下の優先順が考えられるが、取組みは始まっているのか。</p> <p>優先: 高 ・原木の植林(手入れの状態にもよるが成長まで10年ほどかかるのではないかと)</p> <p>優先: 中 ・漆掻き職人の育成・確保 ・漆掻き・精製に使用する道具、設備の作成者確保(漆掻きに使用する掻きへらなどを作る鍛冶職人もかなり減っているはず) ・漆塗り職人(漆器作成)の育成 ・その他</p> <p>はっきり言えば、ある程度金銭面で優遇されないと若い人は見向きもしない。 (文化を守るという気持ちだけでは気持ちが薄らいだ場合、一気に廃れる。) また、漆器以外の用途の研究も必要ではないか。 (塗料として様々な用途への挑戦)</p>	<p>原木については、以前の調査で、約21万本市内に植栽されていることが確認されていますが、採取可能本数がどの程度あるのか不明なのが実情です。</p> <p>このことから、調査を行い、持続する管理システムを構築して、成長年数毎の原木本数が循環する環境づくりを目指します。</p> <p>漆関連産業の人材育成については、漆掻き職人をはじめとする漆関連産業の後継者育成のため、受け入れ態勢や研修体制の整備を図るとともに、移住・定住を支援します。</p> <p>漆掻きに必要の道具の製作者確保については、日本うるし掻き技術保存会と連携して、製作者を養成します。</p> <p>漆器以外への用途の研究については、民間企業との連携を検討します。</p>